

会議の名称	広報広聴委員会	開催月日・令和4年8月8日 開会時間・午前・午後 9時58分 閉会時間・午前・午後11時14分
出席者	原 一郎 柴田 喜朗 安井 智子 堀 隆和 山田 紘治	
欠席者	川柳 雅裕	
オブザーバー	議長 南谷 佳寛 副議長 後藤 國弘	
傍聴者		
説明のために出席した者	堀議会事務局長 藤井議会総務課長 中村同課主任	
協議事項	○ 意見交換会について ○ その他	

【開会＝午前9時58分】

原副委員長

本日は委員長が欠席ですので代わりに務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

ただいまから広報広聴委員会を開催いたします。本日は意見交換会について議題といたします。

まずは前回に引き続き、テーマについて協議いたします。議論に入る前にですが、今日の会議に関しましては、9月定例会の際にもう一度皆さんに集まっていたいただいて決定するということですので、今日は議論を深めていただいて、活発な議論を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。委員の皆さんからは概ね、「活性化」「住みやすいまちづくり」「コミュニティバス・公共交通」という発言を前回いただきました。これらを踏まえ、意見交換会のテーマについて皆さんの意見をお聞きし、協議いたしたいと思っております。皆さんからお話をいただきたいと思っております。

柴田委員

前回私が話したのは公共交通の中のバスというくくりで、確か前回後藤副議長がおっしゃったように、とりあえず1つに問題を集約しないとバラバラな意見が出るのではないかということだったので、前と変わらず公共交通のバスという1つのテーマに括ってやれたらいいと思っております。以上です。

安井委員

コミュニティバスを利用される方というのはちょっと限定される場所はあるんですけど、その方たちの中からよく聞く言葉が、利用するときに行きはいいんだけど帰り、例えば買い物の荷物があつたりとかするので、自分のところのそばで停めて降ろすことをしてほしいとか、そういうことはできないのかということをよく聞きますので、そういう流れで利用しやすいコミュニティバスになるような、少しでも1歩1歩近づけるような感じの議論ができたらいいと思っておりますので、そういうテーマも欲しいかなと思っております。無理難題だとは思いますが、停留所を増やすにしても規制があって、距離、時間、いろいろ問題が出てくると思うんですけど、その中でそういう声があるというのを上に上げたいという思いがありますので、お願いします。

山田委員

コミュニティバスについて申し上げるとしたら、安井委員も言ってみえましたが、行きはいいが帰りがというような、時間が空いてしまうというようなことが非常にあるので、せめて3

0分か40分くらいに必ず次のが来るとかというようなことができればいいのかなど、もちろん高齢者の買い物難民と言われるかたちの中で、買い物あるいは病院というところに停まるということになってはいますが、あと、羽島の市内を知ること、例えばもっと文化的なこと、そういったところで散策できる、強いて言うなら料金も無料で乗り放題というようなことでやると、もっと市民が乗られるだろうし、夏休みの子供と一緒に乗ってそういうところへ行くとかというような気持ちにもなってくると思うので、確かに経費的なことはありますが、公共のものでありますので、できるだけ市民目線に立った細かい配慮のある交通機関にしてはどうかと、そんなことを一つ思います。

堀委員

今聞いておきますと、やはりコミュニティバスという話になっていると、テーマとしては皆さんおっしゃるようなバスという点でいってもいいかなというような思いをしております。やはり羽島のコミュニティバスは山田委員も言われたように、行きはいいが帰りはどうしたらいいんだという、だから本数が少ないというようなところがあります。また、いろんな改善点として、岐阜市は200円で全て、20いくつかの路線があると思います、境川バスとか芥見バスとか、地域を限定して回っているそういうところで200円で1日乗り放題というようなことがありますので、羽島はイベント的なこととか、本数を多くするためにもう少し狭い地域を回るとか、お年寄りや買い物とか、そんなところで一番困るのはこれからの時代はお年寄りだと思いますので、買い物した大きい荷物を抱えながら自分の家まで運ばなければいけないとか、そんなことはお年寄りにはできないので、そんなところの声をちょっと吸い上げるということで、お年寄りとか、老人クラブとか、そんなお年寄りが住みやすい街というところで困ってみえる市民の声を吸い上げられたらということをおもっております。

原副委員長

ありがとうございます。皆さんだいたいコミュニティバスという意見の統一がありました。また、その中で様々な改善点、買い物難民の方々の支援とか、羽島市内を知る機会として子供たちへの乗り放題のところとかという話がありました。私自身は高齢者の方で買い物難民の方がみえまして、困っているという話を伺うことがありまして、28%という高齢化率になっていまして、この前キッチンカーが出ていましたけど、そういった買い物のワゴン車とかを羽島もできるといいということをおもったりしたし、それを若い人たちも交えて話をすると議論も

後藤副議長	<p>進むと思います。コミュニティバス、公共交通ということになっていきますので、次回またしっかり議論したいと思います。副議長何かありますか。</p> <p>テーマを絞った意見交換会ということでもいいと思います。市民からいろんなアイデアが出てくるというのは今後の政策につながっていくと思いますので、ポイントを絞った意見交換会でとてもいいと思います。テーマについては広報広聴委員の皆さんで決めていただければいいと思いますので、コミバスもいろんなかたちで、どうやって市民に利用していただくとか、デマンドをどうするかとか、そんな話もありますし、もっと広げて言えばコミバスを利用して何かにつなげるということも市民からいっぱい意見が出るといいと思いますので、大変いいテーマだと思います。</p>
原副委員長	<p>次に意見交換会の進め方について協議いたします。平成30年、令和元年の意見交換会はワークショップ方式でそれぞれのグループに分かれて行いました。議長から全体のあいさつの後、委員長からテーマに関しての意見交換の進め方を説明した後、簡単な自己紹介とアイスブレイクをはさみ、緊張をほぐしてから進められたと思います。今回、コロナ禍で初めての対面での意見交換会を行うこととなりますが、今回の意見交換会の進め方についてご意見などありますか。</p>
堀委員	<p>タイムテーブルを見せていただいて、少し前に戻ったかなと、でもコロナが羽島市でも今100人前後毎日出ています。だけど、これが10月、11月の時点でこの状況でしたらこれもできかねるというようなところで、多分第7波が収まって、10人かそれくらいの規模になってきたらこれもいいかなということだと思います。この形が多くの方の意見、それから昨年度というのはオンラインでやりましたが、今のコミュニティバスというようなことをやるとしたら、やはりお年寄りが中心となってくるとと思いますので、そういう方にオンラインは苦手という方があると思いますので、こういうタイムテーブルに示してあるような、皆さんで集まってやっていくという形をぜひ取りたいと思っております。多分第7波はその頃収まっていると思いますので、次の第8波ということになるかもしれませんが、その辺りの状況を見ながら、今の題材がコミュニティバスということでしたらお年寄りに適する方法でやっていきたいということをお思います。</p>

柴田委員	<p>正直、皆さんの中で問題共有できていると思うんです、今の時点ですでに、なので、多分内容的に過去に羽島で「がやがや会議」というのをやっていましたよね。それと全く同じやり方なんですよ。それよりも1歩進んで、こういう問題があります、じゃあその問題に対して、その解決のためにどうやってやっていくかというような意見が欲しいというのが最終段階の目的だと思うんです。問題ありきでこういうことが言われていますけど、これを解決するためにどう思いますかという、1歩進んだ議論になったらいいんじゃないかと思います。</p>
原副委員長	<p>今柴田委員言われたのは、みんなで付箋を書いて問題を出すというのと、柴田委員の言われた1歩進むというのの違いは何ですか。</p>
柴田委員	<p>最初に問題を出してくるじゃないですか、</p>
原副委員長	<p>付箋で貼るのを直接問題提起をするということ。</p>
柴田委員	<p>最初に問題提起してしまう、こちらからこういった問題があります、それに対する答えが欲しい。最初とりあえずこれを議題にしますみたいに、問題提起されると思うんです、そこからそれをもとにして、これを解決するためにどうしましょうといった、最初に問題がありました、投げたうえでそこからの話をしたい。</p>
原副委員長	<p>例えば市民の方が買い物どうするんだと言ったときに、買物をテーマにしましょうということで、そこでみんなで意見をまた話し合うということですか。</p>
柴田委員	<p>こういった問題があるんだということをちゃんと認識してもらったうえでの解決策を話し合う場じゃないと、また同じことをやってこういう感じになりましたでは進展がないと思うんですけど。</p>
原副委員長	<p>例えばコミュニティバスで皆さんに意見を書いてもらって議論をするのではなくて、コミュニティバスが問題ということのを投げかけてもらって、皆さんにもう一度フィードバックしてもらおうということですか。</p>
柴田委員	<p>投げかけてもらうのではなくて最初に投げる、こちらから投げる。</p>

原副委員長	内容を集中的にということですか、ポイントとしてテーマを決めるということですね。
柴田委員	今買い物ありきで話をしていますけど、それ以外にも問題ありますよね、だから、ポイントを絞るというよりも、もっと利用しやすくするためにどうするかということなので、ポイントを絞るわけではない。
原副委員長	もう一度戻しますが、ターンテーブルのグループ分けのワークショップと柴田委員の言われている違いが見えないんですけど。
柴田委員	付箋にする意味がよくわからない。
原副委員長	付箋にしないとわかりにくいと思います。たくさんの方みえるので、付箋にすることによって整理つくと思いますし。
柴田委員	だったら前やったのと全く一緒ですよという話で終わっちゃうんじゃないですか。
原副委員長	やり方はそうかもしれませんが、議論は違うと思うんですけど、どうでしょうか。
安井委員	柴田委員の言う一歩前に進みたいという思いはわかりますけど、やはりこの2、3年全然やっていないので市民の方の声というのなかなか届きにくいところがあって、こちらから問題を、こういうことに対してどうでしょうかと提言するよりもまず皆さんからの意見をいただいて、その中で、その場でこの意見に対してこういう意見が多かったの、これに対してはどうしたほうがいいでしょうかとか問題提起して、利用できるようにするにはどうしたらいいとか、その内容の中で一歩前に進んでいくというようなことがわかりやすいかなと思います。今高齢者を対象にとか買い物を対象にとか、買い物はただ例を言っただけであって、温泉に行くとかいろんな場面があると思います。先ほど副議長が言われたようにイベントがあったときに何か利用ができる、例えば先立ての市民の森のキッチンカーがあるといったときに、行けない人用に、こういうイベントがあるからバスで乗り付けようとか、そういうような企画ができたらいいとか、そういういろいろな意見を聞けるというのがやはりワークショップならではかなと思っています。それと、

	<p>高齢者を対象だけじゃなくて、学生とか、もうちょっと若いお母さん方とか、どういうふうにしたら利用できるかなというそういったアイデアがたくさん出てくると思うので、年齢を幅広く呼んでいただいて、ただ人数制限はあると思いますが、そのような話し合いの中で意見をまとめて、一歩前に進んでいくというやり方のほうがいいのかというふうに思っております。</p>
<p>原副委員長</p>	<p>柴田委員はタウンミーティングではなくてということですね。問題提起をして、ワークショップではない。</p>
<p>柴田委員</p>	<p>私が言いたいのは、ただ問題はこっちから提起しなさいということを行っているだけです。</p>
<p>原副委員長</p>	<p>ワークショップは大丈夫ということですか。先ほどワークショップと同じではないと言われたので、問題提起するということですね。</p>
<p>柴田委員</p>	<p>そのままで一緒だよということですか。さっきからそれしか言ってないです。</p>
<p>山田委員</p>	<p>非常にこれは難しい問題で、意見交換会ということで、もともおそらく議員が市民に対して、要するにそういう議会報告という中からの問題ではないかなと思うんですが、それが冒頭に、そうではなしに例えばテーマを作ってということで、こちらでテーマを作って皆さんと協議するというような形をずっととってきているわけなんですね。それで今回も言われておりますようにコミュニティバスのことを一つの問題にするということですので、それならコミュニティバスのことについて協議すればいいことであって、他のことは何もなくて、いろいろこれあると思うんですが、例えば我々議員はある程度議会に対してどうなのと、意見交換ですから、あくまで市民がどう思っているだろうということなんでしょうけど、けどその方法でやるとなかなか参加の人数が少ないわけなんですよ。テーマ的に作って、今流行りのペタペタ貼るやつ、というふうにやるとある程度人数制限も20人、30人というふうに募集かけてやるものですから、その会として成立しますが、それをどうするか、例えば今回の場合コミュニティバス、いろいろ意見出ていますが、それを行政のほうへもちろん意見ですからまとめて、議会として提案していくとか、そういうふうにやっていくのが本当なのか、あるいは行政が昔は市民懇談会とか言って各地でやっ</p>

である程度こちらがやりたいことを提案して、いろいろお話ししたらそう大きな反対がなかったからこれやりましょうよという、要するに市民にアンケートを取っているようなことをやって決めていくということですので、そういうやり方をしようというのなら、議会をどうするのか、議会の中のことを皆さんに、お越しいただける皆さんどうですかとアンケートを取るのと一緒になんですね。そんなふうになっていくんじゃないかというような、いろいろ考えると本当に難しいんですよ。どうにかたちで市民との意見交換会、何でもありの意見交換会をやるのか先ほど言ったようにテーマを決めてそういうことだけやって終わりとするなら、せっかくやるんですからやはりこう実のあるやり方をしていくべきではないかなと、最初の出足がテーマ決めということでやったもんですから、それがずっと続いてきているのではないかなと思うんですけど、それをこちらがテーマを決めてしまってやっていくこと自体はいいのか悪いのか、そうなったらもっと大きくとらえて、羽島の将来をどう考えるべきかとか、まちづくりをどうしたらいいかとか、そういう大きい、コミュニティバスをどう改良していったらいいかというのも一つの話ですけど、もっと大きくとらえて進んでいくとか、あるいは専門家を交えてそういう意見を聞いていくとか、いろいろやり方があると思うんですけど、ひとつの限られたことでやると小さいなと、そんな感じを受けます。

原副委員長

活発な議論ありがとうございました。9月に進め方を決定していきますので、今日また深い議論をいただきましたので、またしっかり9月に向けて決めたいと思いますのでお願いします。私自身も皆さんの意見を聞いて、さらにもう一步ステップアップということを考えないといけないという部分も思いましたし、第三者の人も、専門の人も呼びながらというのもいいかなと思ったりもしました。また9月にしっかり議論をしていきたいと思っていますのでよろしく願いいたします。

山田委員

今講師の話をいたしましたけれど、前々から講師の話は出ているんですが、例えば事務局の方に勉強会の講師費用があればそれで対応できますが、ところがない場合、これ前向きでいいんですけど、新しい発想の話が聞けるものですから、そのまま市民と交えて意見交換会をやるかという方法というのものもあるんですけど、予算的な問題がひとつ絡むんですよ。その辺のところも考えないといけないということを思います。

原副委員長

ありがとうございます。

	<p>次に、意見交換会の進め方ですが、テーマに対してより具体的に決めていくといいのではないかと考えます。例えば何が長所、良いか、誰に必要か、何が問題でどうすればよいかなど、数点に絞ると話しやすいのではないかと考えます。それらを話してもらい、いろいろな意見を出してもらいながらポストイット、付箋に書いてもらい、考えを述べてもらいながらB紙に貼ってもらい、グループでまとめ、グループ発表してもらおうという形で進めてはと考えます。いかがでしょうか。</p>
柴田委員	<p>さっき申し上げたとおり、それだと全く一緒じゃないですかと思います。変えるべきだと思います。</p>
安井委員	<p>柴田委員の前向きな意見はいいんですけど、それをどういうふうにするかというところを聞きたいと思っていますんですけど、このままだと前と一緒にじゃないかと言われましたので、例えばグループで出た意見を振り返りますよね、問題提起できますよね。その先これをどうしたらいいと思いますかというその先の意見までも聞くというようなところを増やしたらいいのかなと思います。</p>
山田委員	<p>堂々巡りですが、もしあれでしたら、例えば議会でこういう問題について困っているよと、だからこのことについて皆さんの意見を賜りたいというふうにしたほうがはっきりわかりやすいと思うし、柴田委員が言うようにペタペタ全部貼っているわけですから、このやり方を何というのか、今流行りのやり方。</p>
後藤副議長	<p>ブレインストーミングのKJ法だと思います。それぞれの意見を出していただいて、それについて議論していくというのがこのやり方だと。</p>
山田委員	<p>こういうやり方を、若い子といってもずいぶん昔から始まっている話ですけど、それを繰り返してまとめた中でそれを実行していくということなんですけど、我々議会としてはそれを聞いても実行できないわけですよ、財政的にもどうしたって執行部の方と話し合うということをしていかないといけないという問題が起きてくるわけですけど、そこをあくまで議会との意見交換会ということで、ただ単に話し合いをすればという考え方であればそう深く考えなくてもいいんですけど、せっかく皆さんの意見をお聞きするわけですから、やはり議会として反映して、市の活性化のためにつなげていくように我々は努力をしないと議会は何をやっているのかという話になってきます</p>

堀委員	<p>ので、その辺のところはしっかりとやっていきたいと思えます。</p> <p>今やり方について色々、私も柴田委員の言うことがどうかということについてはっきりわからないんですが、要は今までのやり方がテーマが決めてあるけど、それについてそれぞれ意見を言ったことを10も20も30もペタペタとグループ分けして貼るわけですから、それで大まかな意見を最後まとめてグループごとに発表されるということで、要は1日、1回だけですよね、やるのは、これが2回、3回やれば積み重なっていきますが、1回だけの勝負ですので、1回だけの勝負の時はいろんなやり方があるわけですが、市民の意見を高めないといけないと思えます。市民が現在思っていることをたくさん発表して並べていく、それをどうのこうのというよりもある程度解決方法を見出して行って、その中で行政がくみ上げるかどうかは財政的な問題もあると思えますが、それを行政が取り上げてくれたらなというところを提案出来たら参加者は納得できると思えます。だから、その辺のやり方というのはだいたい集まっていたら市民のレベルというのは多分の現在の自分の身の回りのことしかわかってみえない人が多いんじゃないかなと、全国的なコミュニティバスの流れとか、そういうところはわかっていない、先進的な事例というのもしんなにはわかっていない、だから講演をやっていただいて、20分なら20分、30分なら30分講師の方に講演をやっていただいてこういう事例がありますよと、それで羽島市としては皆さんの描いてみえるところえ方はどれがいいでしょうとか、どうしたら買い物難民とか、利用者が少ないとか、そういうのを解決できるでしょうとかというところで話し合いが先進事例なんかをもとに話し合っていて狭めていくというようにして行政はどうでしょうかと、議員というのは市民の意見を取り上げて、そして行政のほうへ戻すわけですよ、市民の意見を、それを公開でやるというというのがこれの広報広聴委員会のあれだと思えます。私はある程度20分、30分くらいの講演を最初に入れていただいて、それをもとにして話し合ってもらおうと意見が集約できてというふうに私は思っております。そんなやり方もいいんじゃないかというように思えます。</p>
安井委員	<p>先ほどの副議長の話でちょっと思い出したんですが、付箋をやるといいというのは大学の教授かなんかで勉強会で教えていただいて、これのやり方はよく理解できるしわかるよねというふうで確か取り入れたと思うんですけど、その中でやられた</p>

方たちが文字にして書いてやるとわかりやすいよねと言われたような覚えがあるので、付箋を意見交換会でというのはそんなに無駄じゃないと思っております。先ほど山田委員がおっしゃられた、一つに絞らずにいろんなテーマを出すというようにおっしゃられたんですが、確かにそうだなと思ったんですが、ここまでの話し合いの中で、前の時に何かないですかといったときにコミュニティバスでというような意見が多かったのでこれに絞ったと思うんですけど、新たにまたやると元に戻っちゃいますよね。最初に、そういうふうにもう議論したほうがいいのか、もうちょっといろんなものを作って、もう一つくらいテーマを入れてやったほうがいいのかちょっとわからなくなってきましたけど、どれがいいのかなと、ちょっと疑問になってきました。

原副委員長

活発な議論ありがとうございます。堀委員が言われたように説明してから入ると多分入りやすいと思うんですけど、ただ時間的にちょっと厳しいかなと思ったりもしますが、またテーマを絞ればある程度そこに向けて参加者がみえるかなと思ったりもしましたし、皆さんの活発な意見ありがとうございます。オンラインを併用した場合について皆さんに議論していただきたいと思います。今回ワークショップの場合、オンラインの場合ですけど、意見を進行役の議員が補う必要があるということになりますけど、オンラインを併用した場合に、進め方についてご意見を伺えたらと思います。

堀委員

オンラインというのは一人が話をしている間はその人に集中しないといけない、グループで何台かやるというのは技術的に問題があると思います。例えば5つのグループに参加者30人と、それをオンラインでやろうというのはちょっと問題があると思います。だから今回の場合、昨年度はコロナという状況でこういう会議なども制限されたという、今の場合は政府もそこまで規制をかけていないというところで、オンラインではなしに前のようななるべく多くの人数に集まっていたらグループ分けをして同じテーマで話し合っていたらこうと、なるべく多くの市民と、それとコミュニティバスということですので、対象は特に高齢者というところですので、そんなところで、今コロナが羽島で100人前後だと思いますが、それが200人とか、50人でも危ないかと、やっちはいけない、政府の方からいろいろ対策が出ている、やっちはいけないということでしたら昨年のようなオンラインも致し方ないというふうに思うんですが、今のところはなんとか多くの人の意見を聞こうと

柴田委員	<p>思ったらオンラインではなしにこのやり方でいけたらいいという希望的な観測です。</p> <p>オンラインでやろうと思うのであればさっき言っていたK J法は難しいと思いますし、最終的なグループ発表をやる時にどうなるんだろうと思うので、オンラインでやるのであれば完全オンラインでやった方がいいと思います。対面でリアルでやるのであればリアルでやらないと付箋で例えばK J法をやるのであれば、たぶん同じ意見が出ると思うんです、でも出ている意見に対して画面映しながらやると思いますけど、技術的に難しいんじゃないかなと思います。以上です。</p>
安井委員	<p>基本的には皆さんテーブルで意見交換するというのが基本だったと思うんです、今こういうコロナの状態なので、もしコロナでどうしてもそれが難しいというのであればオンラインに切り替えるという両立てにしておいて、とにかく中止にすることじゃなくて、どちらかでやれるような体制をとっていくのがいいかなと思います。</p>
山田委員	<p>オンライン系統はよくわからないんですが、オンラインだと画面で顔は見れますけど、そのテーマについて精通した方がいらっちゃって、上手にかじ取りをやっていかないと、ただみんながしゃべっているだけということになりますし、そういうことをやれる方というのは比較的若い層が参加してくれるかもわかりませんが、そういう点ではメリットはあるかなと思いますが、ただそれにはそれなりのリーダーというかかじ取りがしっかりする専門家がいなくなるとなるとやっとなんやという話になってしまうので、と思います。</p>
原副委員長	<p>ありがとうございます。私も皆さんと同じ意見で、オンライン化現場のほうかどちらかと思っております。また次回の時に決定したいと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>次に、時間の配分についてですが、過去平成30年、令和元年の意見交換会のタイムスケジュールでは、13時から受け付け開始、13時30分に開会して議長のあいさつ、委員長がテーマの説明をして10分、その後意見交換会、13時40分から入り1時間、自己紹介、意見交換会全部含めて14時30分、14時30分に休憩を一つ入れまして、その後ポストイトで貼ってもらってグループ毎に20分まとめてもらいまして、最後に14時50分から全体でグループで話をしてもらい、15時25分に閉会で進めていきたいと考えますがいかがでしょ</p>

	うか。
柴田委員	時間は長くしたり短くしたりとかはできるものですか。
原副委員長	これは前回なので。
柴田委員	それをもとに話し合いをするということですか。
原副委員長	今の話は前回のタイムスケジュールですけど、今回はどうしますか、タイムスケジュールについてという。
柴田委員	だから、今回話し合うのに前例って説明する必要あるんですか。
安井委員	ある程度進めるに当たって、バラバラでああしたらいいというよりは、前例がありますのでこの前例に沿ってある程度ここから変えていくということのお知らせだと思います。
柴田委員	じゃあもうK J法ありきってことですよね、だってこれ前回のやつってK J法使ってやっているやつじゃないですか、でもK J法使ってまだ決まってないじゃないですか、その時点でこれが前にあったけどというのは結局やり方としてはK J法ありきでこういうタイムスケジュールでやりたいけど今回どう思いますかって言ってるだけじゃないですか。それって意味あるんですかって思うんですけどどうなんですか。
原副委員長	今お伝えしましたとおり、まず議長があいさつして、委員長がテーマの説明をすると、その後に皆さんに自己紹介と意見交換をしてもらうと、その後柴田委員が納得いかないと言われていたK J法という話になっていまして、そこばかりではありませんので、時間配分について、例えば議長のあいさつ、委員長の説明、その後に自己紹介、意見交換会、スケジュールの話なので、ありきではないんですけど、今回はこういうふうにしましたという話です。ポストイットも。
議会総務課長	今回事務局で準備させていただいたのは、平成30年の意見交換会が試行で行われたんですけど、意見交換会をどのようにやっていくかということは当時議会改革特別委員会で議論を重ねられて、検討されてこのようになっております。平成30年と令和元年において2回このようなタイムスケジュールでやっておりましたので、そのときのタイムスケジュールを例と

して出させていただきました。当時ですけど、意見交換会は市民の皆さんから意見をお聞きし、それらを市政に反映していくことを目的に、市民の方と意見交換会を開催するというところで、意見交換会はカフェのようなリラックスした雰囲気の中で参加者の皆さんと議員とが自由に語り合う場所ということで募集をしておりましたので、意見交換会では共通の課題を解決するために、参加者がともに議論し、お互いの考え方や立場の違いを学び、協力しながらアイデアをまとめていくということで、参加者全員が自分の考えや意見を出し合い、様々なアイデアをつなぎ合わせ、何より会話の方を楽しんでくださいということで、最初の意見交換会の中では結論を出さないということで、一人でも多くの方の意見を聞いていくという話でした。なので、意見交換会ではテーマに対し参加者の皆さんが自由に自分の考えや意見を出し合い、協力しながらアイデアをまとめていき、最後に各グループで発表し、取り入れていきたいというかたちで当時始めております。去年はオンラインで開催しましたけれども、その前に議会改革特別委員会で話し合われて決められた意見交換会はこういうかたちでしたので事務局の方はそのように資料を準備しましたが、今後変えていかれるということでしたらその辺りは決めていただければと思います。

柴田委員

前回のおり答えというか、そういうものを出さないのであればこれでいいと思いますけど、やはり意見を聞くだけだと同じなので、やはり議会提言していかないといけないと思うんです、さっき山田委員が言ったとおり、なので、やはり具体的な解決に向けた話し合いじゃないと、結果を求めないといけない気がするんですけど、私はそのやり方がいいと思いますけど、別に他の方がどう思われようが私はそう思います。

南谷議長

今話を聞いていると、意見交換会の時に結論を出さないといけないことを言われているんですけど、とにかく意見交換会なので、市民の皆さんの意見を聞いて、それを執行部に我々が広報広聴委員会として、こういう意見が市民の皆さんからあったということを訴えて、少しでも行政がそれに近いかたちで動いてもらえるようにやるのが意見交換会だと思いますので、その場で答えをすぐ出せというのはとても無理な話なので、それだと執行部の皆さんみんな来て、返事をしないといけなくなるので、それは意見交換会じゃないと思います。

柴田委員

さっきも申し上げたとおり、以前やったやつって執行部の方

に投じているんですか。投げて何か変わりました。当然議長だったらご存じですよ。

議会総務課長

平成30年の意見交換会は議会だよりについてということでしたので、それは議会だよりの構成などで反映することができました。次に、令和元年の意見交換会は「魅力のあるまちづくり」というテーマで、前回も言ってみえましたが、いろいろ意見が出まして、ちょっとまとまる感じではなくて、それぞれの常任委員会で課題になるような意見が出まして、それぞれの委員会で考えましょうということで委員会ごとにいただいた意見を分けて話し合っていたく機会もありました。意見交換会では意見をいただいて、意見を整理して課題を設定してそれを所管事務調査していくのか提言していくのかということとはそれからのことだと思われるんですけども、各常任委員会で話し合っ、次年度の常任委員会で引き続きやりましょうということで令和元年度は終わりました。令和2年度になって引き続きやるということになりましたが、そのタイミングでコロナが発生しまして、なかなか会議が思うように開くことができなかったというのが現状です。

堀委員

私も柴田委員の言われること、非常にこれだけ、どういうことかと言いますと、要はコミュニティバス、私も正木コミセンで行われたコミュニティバスの、コミュニティバスは3年か4年に1回改定されるというところで、前回正木の方へ参加したわけです。その時に、要はいろんな市民の意見が出ました。しかし、羽島の場合は本数が少ないと、行きはいいけど帰りが来ないと、そういう意見が出ました。しかし、簡単にその意見を何とかしようというあれではなしに、私の受け止め方ですよ、従来通りの右回り3本、左回り2本とか、1日5本というのは変わらなかったわけです。だから、隣の笠松町なんかだと右回り左回り1時間に1本、それも定時で同じ時刻でわかりやすいというようなところがあるので、そんなようなかたちでという話でしたが、財政上の問題とかということで簡単と言っては申し訳ないですけど、そういう意見が羽島の場合は多いわけです。だけど、ほとんど変わっていないという状況で、今市民の皆さんも羽島の場合は本数少ないと、だから本当に柴田委員が言われるように、市民の皆さんとKJ法でやる場合、30人くらい集まっていたくというふうになると思うんですが、そういう意見をいただいても財政上の問題でとやられてしまうというところが正木コミセンのときのようなことで、がんばって意見を言っていたくというところがありますので、そん

	<p>なところで財政の問題、だけどそこを工夫してというところも、もっと執行部側に要請したい、それが一番大事かなと、執行部側の方の、どうしても財政が羽島の場合厳しいからしょうがないですよ。だけど、そういう意見があるというところで何か工夫をというところを、執行部側が集まっていた、それで提言をした場合にその答えそして帰ってくるのが集まっていたいただいた方の慰めになるかなというふうに思いました。本当に意味のあるものに、何とか気持ちだけでもしていきたいという思いでありますのでよろしくお願いします。</p>
原副委員長	<p>今タイムスケジュールの話をしておりますので、ちょっと聞きたいと思います。柴田委員はタイムスケジュールに関しては。</p>
柴田委員	<p>大丈夫です。</p>
安井委員	<p>先ほどの堀委員の意見にプラスアルファしたいんですけど、正木コミセンでコミュニティバスに関していろいろさせていただいていたときに、意見が出たものの中で、停留所をもっと自分の家の近いところにしてくれとか、ルートをもうちょっと変えてくれとかそういう意見もあったんですけど、その後で見えておりますと、停留所を少し変更された部分、ルートも変えた部分、羽島病院のところは大きいバスはダメだから小さいバスに変えたとか、意見があったからこそ少しずつでも変えていただけたので、この意見交換会の中で出た市民の声ですよというのを伝えるというのはすごく大事なことなので、皆さんの意見をもとにして行政にこういう意見がありましたよと言っていける場所かなというふうに思っていますので、ちょっとでも堀委員が言われたみたいに少しでも前に行けられるような感じという方向で進めてほしいなと思います。</p>
後藤副議長	<p>テーマがコミュニティバスで盛り上がっているんですが、市民との意見交換会というのは、当初は結論を出さない、市民の意見を聞くというのから始まっていますので、ここで結論を出すのではなく、市民の意見をたくさん聞いて、その意見をどう反映させるかということで、前は常任委員会の方へ持ち帰って討議しましょうということで話が進んだと思うので、これでいきなり結論を出して行政へ訴えるということは意見交換会では無理があるんじゃないかなと思います。</p>
原副委員長	<p>ありがとうございます。結果を出すことは大事なんですけ</p>

ど、我々議員としてもいろんなところでいただいた課題を自分の中で研鑽して、他市町とか改善策とかいろんな勉強をしていく中で提言していくことも必要かなと思っております。安井委員はタイムスケジュールに関しては。

安井委員

大丈夫です。

山田委員

今まで通りのかたちでやってくれたら、このタイムスケジュールしかないし、先ほどから出てきているように、その結果を常任委員会か何かに諮ったことを執行部に提言していくということはとっていかないと、何のために市民からそういう意見を聞いたのかということになりますので、聞いた結果を、寄っていただいて、まとめていただいて、その結果は何も知りませんよではいかん話であって、それだけお世話になったのならそれなりの回答をしないといけない、こういうふうでやりましたよということをやっていかないと、やっている意味がなくなるので、形としてこういう今までのやり方でそのタイムスケジュール等はそうやり方でやればいいわけであって、後の尻くくりというのか、その関係についてはきちんと常任委員会にかけることで、執行部に必ず提言していくと、それで執行部の方から答えをもらおうと、もらったことは関係者にお知らせするということはきっちりやっていかないと、議会としての信用がなくなっていくし、その点はきちっとやろうと思います。

原副委員長

堀委員はタイムスケジュールは。

堀委員

私もこれで結構です。先ほど言いましたように、話し合いの結果は求めないと、それは当然です。それはいいですが、やはりその中でたくさんの意見が出るわけです、ある意見をたくさんの方が出したと、そういう結果については執行部の方にきちっと伝えて、執行部の方も意見について真面目に答えていただくと、本当に誠心誠意努力していただくところを議会だよりなりで市民の皆さんに返していくと、やはり参加された方、市民も意見交換会を議会がやっているその意義が大きい、その意義が結果を求めない、言わばなしで、それも一つあると思います、意見交換会それでもいいと思います。やはりわざわざ議会がやる、市民の皆さんが何人か集まっていたと、貴重な意見をいただく、それをやはり市民の皆さんに返していくというサイクルがいいかなということだと思いますので、そんな意味で市民の皆さんが本当に意義のある意見交換会と言えるように我々が努力していくべきだと思いますので、議員の方で

原副委員長	<p>やるわけですので、議員が一致団結してその意見を尊重していくということで進めていきたいと思っておりますのでお願いいたします。</p>
堀委員	<p>続きまして、アンケートについて、次年度の参考とするために、前回と同じような形で意見交換会のことについて、意見交換会をどこで知りましたか、意見交換会の開催日時設定はどうでしたか、意見交換会の場所は どうでしたか、意見交換会の時間は どうでしたかというような設問を設け、また、広報に関わることとしましては、議会だよりについても直接参加者の意見を聞く機会でもありますので、今まで議会だよりを読んでいましたか、これから議会だよりを読みたいですか、普段議会情報はどこで入手していますかというような設問を設けながら、意見交換していきたいテーマ、その他自由記述で行ってはどうかと考えますが、皆様のご意見をお聞かせください。</p>
柴田委員	<p>このアンケートで十分ですので、これだけ聞ければ答える方もちょっと多いくらいかなと思っておりますので、これで十分です。</p>
安井委員	<p>アンケートについては何も申し上げることはないと思えます。このまま行っていたらと思います。</p>
山田委員	<p>アンケート内容はいいんですけど、文字が小さいのでもう少し大きくしていただいて、感想の枠のところが多いので、半分くらいにしてもいいのかなというふうに思います。</p>
原副委員長	<p>このアンケートは議会だよりについてをテーマにしたときのアンケートなんですよ、だから議会だよりを読んでいますかとか、読みやすいですかというのも結構ですけど、ちょっとくどいなと思えます。議会だより議会だよりというのは、それから、その下のかっこが一番重要なと、テーマは決められておりますので、羽島市をどうしたらいいか自由意見というか、そういうのを書いていただいたほうがいいのかなと、そんなことを思います。</p>
原副委員長	<p>ありがとうございます。続きまして、開催日までのスケジュールについて、前は11月13日日曜日または19日土曜日に絞り込みました。当日までに前議員への連絡や説明、参加者の募集、グループ分けを行うこととなります。11月1日に議会だよりが発行されますので、どちらにしても意見交換会の案内を掲載することとなりますが、案内そのものは1カ月程度の</p>

	<p>期間を設け、10月中旬には開始してはどうかと考えます。それまでに全員協議会などを通じて全議員に意見交換会の進め方などについて説明したいと考え、9月最終日辺りを目途に広報広聴委員会で準備を進めていきたいと考えています。11月13日、最も早い開催日ケースでは1週間前の週明けにグループ分けなど、最初の準備を行いたいと考えますがいかがでしょうか。</p>
<p>柴田委員</p>	<p>結局それまでにさっき言っていたオンラインでやるのリアルでやるのかというのを決めちゃうということによろしいですか。準備するのはそのスケジュールでいいと思うんですけど。さっきまでの話だと開催のやり方によって多分変わってくると思うんですけど、そこだけ気を付けていただければ。</p>
<p>安井委員</p>	<p>最終の募集日はだいたい何日くらいでしたか、予定で、最終の締め切り。コロナ禍になってどちらになるかというのを決めないといけないし、ギリギリというのはちょっとバタバタする感じなので、少しゆとりを持った締め切りにしてもいいのかなと思っておりますけど、決まっていたか。例えば13日にしても19日にしてもどちらになってもいいようなゆとりのある締め切りにするのかギリギリまで待つのかというところがちょっと気になる場所ですが。</p>
<p>議会総務課長</p>	<p>参加者の募集につきましては、過去を見ますとギリギリまで、日曜開催なので、木曜日くらいまで。</p>
<p>安井委員</p>	<p>例えば13日とすると11月4日までということ。なんでかということ、意見交換会をするのにグループ分けしたりとかいろんな準備が入ってくるので、あまりギリギリなのはどうかと思ったので。</p>
<p>山田委員</p>	<p>スケジュールはいいと思うけども、コロナ禍の中でどうしていくのか、社会全体を見ても同じような行事でもやめているところとやっているところがある、こういう差がありますので、なかなか決めがたい問題だと思うんですが、募集はどうやってかけていたか。</p>
<p>原副委員長</p>	<p>募集は議会だよりとホームページ。</p>
<p>山田委員</p>	<p>今度の議会だよりは11月でそのときに募集をかけるということ、開催が13か19となると大急ぎでやらないと大変か</p>

堀委員	<p>など、開催もう少し延ばしたら、募集かけたら日にち言わないと、なかなか難しいところですが、これはみんなで決めてもらえば結構です。</p> <p>本当に今年の場合はK J法でやるか11月の段階でコロナがどういうふうになっているかというところでオンラインでやるかという、オンラインとK J法では人が違うので、オンラインでできる人とできない人がいるので、本当に難しい問題だなと、11月1日にしか出ないので、議会だよりは、13日は到底無理じゃないかなと、今年の場合は、去年の場合はオンラインということがはっきり決まっていたのでいいわけですが、今年の場合はどちらかというまだ選択できないということで、19日かもう1週遅らせて26日かという、そこら辺りまでやっておかないと開催ができないんじゃないかなと、K J法でいいと思っても急に増えたら当然無理だと思います。今言われるようにやっているところとやっていないところとあるかもしれませんが、K J法というのは顔を突き合わせてやるわけですので、シールを貼って、だからこれだけ間隔をあけて会話するというような状況ならいいですが、一つのテーブルのところで数人集まって顔を突き合わせてそれを貼るわけですので、だからK J法はコロナが今の状況あたりだと多分できないんじゃないかなということを思いますので、私は19日もしくはもう1週間後くらいにしておいたほうがいいかなという思いをしております。</p>
原副委員長	<p>ありがとうございます。本当に両方併用して流動的になってきますので、期間に関してまた皆さんで後日決めたいと思いますのでよろしくお願いします。</p>
議会総務課長	<p>会場の方ですけれど、文化センターということで13日、19日ということで前回話をしたんですけど、ワクチン接種の関係でもし第5回のワクチン接種を行うということでこの時期に当たった場合は文化センターが使用できなくなる可能性があります。それがいつ明らかになるかというところもあるのですが。</p>
堀委員	<p>前ストックヤードを使っていましたよね。ストックヤードでしたら空いていると思います。狭いかもわかりませんが、そこらあたりを、文化センターがワクチン接種で会場がいつ取れなくなるかもわからないという状況ですので、そんなところもあたっていただけたらというふうに思います。</p>

山田委員	<p>今会場の問題が出たのでさっき言おうと思ったのですが、コロナの関係ですけど、今は制限がかかってないわけですよ、一応集まってもいいわけですから、会場でできることなら、文化センターでできるなら4階、天井の高いところで、それでみんなマスクしていますからよほど避けられると思うんですね。もし文化センターがだめなら市民会館のホール、あそこでも30人くらいならかえって大義名分が立つんじゃないかなと、広い中のあれなので、時間は1時間なら1時間と区切ってやればクリアできると思うんです。そうなってくると決行、やるならやると、迷っていたら仕方ないわけですよ、おそらく今の状況を見ていると制限はかけてこないと、そういう問題については、ただやるかやらないだけの話であって、広い中でも30人でマスクもしていると、もちろん手洗いとかきちんと言うようなことで、やるということを決めておいたほうが途中で中止だとかいいけど、そんなことを考えます。</p>
原副委員長	<p>他によろしいでしょうか。</p> <p>(特になし)</p>
原副委員長	<p>最後に意見交換会の進め方などの説明について、全員協議会の開催を議長に依頼したいと考えますが、いかがでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
原副委員長	<p>以上で意見交換会について終了いたします。その他何かありますか。</p> <p>(特になし)</p>
原副委員長	<p>議長さん何かありますか。</p> <p>(特になし)</p>
原副委員長	<p>副議長さん何かありますか。</p> <p>(特になし)</p>
原副委員長	<p>意見交換会が議会基本条例に位置付けられた議会の広聴活動であることを念頭に、参加者の意見をよく聞き、考えなどを</p>

	<p>十分聞き出し、よいものにまとめていくことができるよう積極的に協力し合いながら行っていきたいと考えます。よろしくお願ひいたします。これで広報広聴委員会を閉会いたします。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">【閉会＝午前 11 時 14 分】</p>
--	--